

ICT を使って

金沢の地域課題を

一緒に解決しませんか？



「自ら社会を良くしていこう」という思いが大切です



※一般社団法人コード・フォー・カナザワ
ITとデザインで地域課題の解決を目指す市民団体
2013年5月設立(2014年2月一般社団法人化)

一般社団法人
コード・フォー・カナザワ[※] 代表理事
福島 健一郎さん

Q. 「シビックテック」という言葉を少しずつ聞くようになってきましたが、あらためて「シビックテック」とはどのようなものなのでしょうか？

A. 「シビックテック」とは、Civic(市民)とTech(テクノロジー)をかけあわせた造語です。**市民自らがテクノロジーを活用して、地域課題を解決する取り組みや考え方を**いいます。一例をあげると、地域課題を解決するために市民自らがアプリなどを開発するような活動ですね。

Q. 福島さんはシビックテック団体として日本で初めて「コード・フォー・カナザワ」を立ち上げ、活動されていますが、きっかけがあったのでしょうか？

A. 本業はIT企業を営んでいるのですが、情報収集の一環で英語圏のニュースをチェックするなかで「コード・フォー・アメリカ」という団体を知りました。冬に消火栓の場所が雪で埋もれて分からなくなるという課題に対して、エンジニアたちが消火栓の位置情報をマッピングして、それを見たボランティアが除雪するという取り組みを行っていました。私自身はボランティアの経験は全くなかったのですが、エンジニアとしてなら何か課題解決に取り組めるかも、できたら面白いだろうなと思ったのがきっかけで、「コード・フォー・カナザワ」を立ち上げました。

Q. 設立から10年以上が経過しましたが、これまで多くのメンバーが活動を展開してきましたね。

A. 設立当初はメンバーがなかなか増えなかったのですが、まずは何をしようとしている団体を知ってもらうために、アプリを開発して公開することにしました。そのアプリが「5374.jp(ゴミナシ)」です。このアプリをきっかけに団体や活動の認知度が上がり、メンバーが増えました。「5374.jp」自体もオープンソース化して公開したことにより、今では全国130都市以上に拡がりました。その後も、2022年3月の石川県知事選挙の際には「石川選挙ナビ」を開発したり、金沢市とシビックテックに関するイベントを共催するなど、これまで様々な活動に取り組んできました。

Q. 着実に活動が広がっていますね！

A. そうですね。ゆっくりではありますが、着実に市民にシビックテックが広がってきていると感じています。コロナ禍でデジタル技術の有効性が認識されたことも大きいですね。メンバーはエンジニアに限らず、デザイナーや会社経営者など多岐にわたります。この**多様性と、自分たちで社会を良くしていこう！**という思いが、とても大切だと思っています。スキルよりも、この思いに共感してくれる方には是非シビックテック活動に参加してほしいです！



5374.jp (ゴミナシ)
金沢市が公開しているゴミ分別辞典データをもとに、4つの分類のごみの収集日や、捨てることのできるゴミの一覧などを検索可能



石川選挙ナビ
立候補予定者から提供されたデータをもとに、政策比較が可能(※公開終了)



シビックテックミーティング 2023
シビックテック活動を広く市民に周知するイベントを金沢市と共催

シビックテック活動は「誰かのため」だけでなく「自分のため」にもなる活動です

エンジニア 雄谷 峰志さん

Q.雄谷さんがシビックテック活動を始めたきっかけを教えてください。

A.「社外でのコミュニティを作りたい!」と思ったのがきっかけです。

仕事以外でICT業界の方々と交流できる場がないか探したところ、「コード・フォー・カナザワ」に出会い、シビックテックについて知りました。仕事以外で自分のスキルが人の役に立つという点にとっても惹かれましたね。

Q.これまでのシビックテック活動で、印象に残っているものはありますか？

A. 一番印象に残っているのは、2020年の「金沢テイクアウトマップ」の活動です。

学生時代にまちなかの飲食店でアルバイトをしてお世話になった経験があるのですが、コロナ禍で多くの飲食店が苦境に立つ中、なにか自分も力になれないかと考え、テイクアウト可能な飲食店を紹介するアプリを開発し、公開しました。

私以外にも多くの方々に協力していただき実現しましたが、初めて自分から課題を認識して主体的に動いたプロジェクトだったので、達成感がありました。

2023年には「シビックテックスクール」という金沢市のアプリ開発講座の講師も務めました。

プログラミングの経験のない受講者の方々が、実際にアプリを開発して課題解決に生かしてくれているのが嬉しかったですね。

Q.シビックテック活動に携わることで、どのようなものが得られましたか？

A. まずは、**人脈**が挙げられます。ICT業界の方はもちろん、普段の仕事では出会うことがない様々な業界の方とも知り合うことができ、活動を通して人脈が広がりました。

同業のICT業界の方から学ぶ**ICTスキルや知識**も仕事では得られない新しい刺激があり、自分自身のスキルアップにもつながっているのが、楽しみながら活動を続けられています。

シビックテック活動のゴールは、システムやアプリなどの構築ではなく「課題の解決」なので、**真の課題を認識し、潜在課題を顕在化する能力**も身についたと思います。

何よりも、多くの方々が現状を少しでも良くしようと頑張っていることを知ることができて、色々なことに前向きな気持ちになることができましたね。

シビックテック活動は、「誰かのため」に行うボランティア活動に思われるかもしれませんが、やりがいがあるだけでなく、自分自身の人脈づくりやスキルアップにもなります。

「自分のため」に始めたシビックテック活動が、誰かの役に立って素敵なことだと思いませんか？

少しでも興味を持たれた方がいたら、私もお手伝いさせていただきますよ！



シビックテックスクール
ノーコードツールなどを使った
アプリ開発講座の講師を担当



金沢テイクアウトマップ
テイクアウト可能な飲食店を
紹介(※公開終了)

困りごとに気付く能力などが 普段の業務にも役立っています



北菱電興株式会社 松田 夕貴さん



北菱電興株式会社

三菱電機の代理店として、ファクトリーオートメーション機器などの販売のほか、建設業設備工事、各種制御システムや電子機械器具の開発・設計・製造まで幅広く事業を展開し、近年は農業分野などの新規事業の立ち上げや産学連携にも力を入れています。

Q. 松田さんがシビックテック活動を始めたきっかけを教えてください。

松田 10年ほど前に金沢市が「オープンデータ」の公開を始めたときに、このデータを使って何かできないかと考え始めたのがきっかけです。最初は、自分がごみを捨ててしまうのを防止するために、ごみ収集日のデータを取得して、収集日当日にLEDが光るガジェットを作ったりしました。

Q. 松田さんのこれまでのシビックテック活動で、印象に残っているものはありますか？

松田 「金沢市古紙等回収拠点マップ」の開発ですね。古紙の回収場所が分かりにくいという自分が少し不便に感じていたことを声にして、その解決策をメンバーのエンジニアと形にすることができました。実際に自分でも時々利用して、便利さを感じています。

自分が感じていた不便さが他の人にとっても不便なんだという気付きにもなりましたし、不便を解決していくなかでさらに改善したい内容が出てくることも楽しさの一つだと思います。

Q. シビックテック活動って、やっぱり高いスキルがないと参加は難しいですか？

松田 そんなことは全然ないですよ！エンジニアだけではなくて、アイデアを出す人や議論をまとめる人、デザインができる人など様々な人がいて成り立つのがシビックテック活動です。

自分のスキルが通用するかということは心配しないで、気軽に参加して欲しいですね。

Q. 酒元さんは、松田さんがシビックテック活動に取り組んでいることをご存じでしたか？

酒元 はい、先ほどの「金沢市古紙等回収拠点マップ」を開発した際には報道もされたので、知っています。社内でもオープンにされているので、社員の間でも知られていますね。

地域課題と直接関わる経験は 必ず人間力にプラスになると思います

北菱電興株式会社 取締役 CLO 酒元 一幸さん

Q.松田さんのシビックテック活動での経験が、業務に活かされていると感じますか？

酒元 そうですね。現在松田には、農家や地元大学の学生など関係者の皆さんと一緒に、北陸の農業や食文化に関わる人を応援するサイト「農援ラボ」の立ち上げや、テクノロジーを活用した農業のスマート化など、これからの農業を見据えた事業に主体的に取り組んでもらっています。

「互いが手を取り合って地域課題解決を目指すその中にテクノロジーの活用がある」という考え方は農業分野でも通ずる部分があり、事業構想や推進時の**人脈形成、スキルの活用**などの点で、シビックテック活動の経験が活かされていると感じています。

松田 日常的に困りごとに気付く能力や、困ったときに作れそうなら作ってしまうという**マインドセット**が身についたと思います。

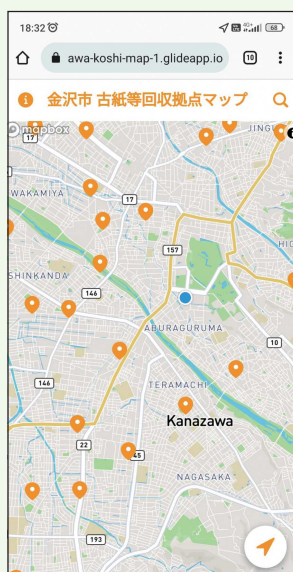
業務で使わないツールなどを使うことで、**技術的な知識**を得て実践することもできていますし、シビックテック活動を通して生まれた**人脈**が本業にもつながっています。

Q.シビックテック活動は、人材育成としても有効でしょうか？

酒元 人って、本人の「気づき」があって初めて成長するものだと思っていますが、その機会を企業が全て提供できるかというと、やはり難しい部分もあります。

シビックテック活動のように、企業を通してではなく**個人として地域課題に直接関わる経験は、必ず人間力にプラスになる**と考えています。主体性はもちろん、協働性や探求力も、そのプロセスを通じて養われていくのではないのでしょうか。

自分のスキルが社会貢献につながる経験を積んでももらえれば、企業に求められる社会的責任と利潤の両立を考えることができる人材の育成につながっていくと考えていますので、当社としてもシビックテック活動に参加しようとする社員を応援していきたいと思っています。



松田さんのグループが開発した「金沢市古紙等回収拠点マップ」
古紙等回収拠点を地図上で検索可能なほか、各拠点の回収品目や日時を詳しく表示させることが可能

シビックテック活動に参加するには？

まずは様々な活動を知ってください

Q. 様々なシビックテック活動が行われていますが、活動に関する情報はどのように収集したらよいのでしょうか？

A. 金沢市では、シビックテックに関する様々な事業を行っており、イベントや講座などの募集も随時実施していますので、ウェブサイトやSNSなどをチェックしてみてください！

シビックテック団体である「コード・フォー・カナザワ」は、主にfacebookとInstagramで発信していますので、ぜひフォローしてみてください。

【金沢シビックテック推進協議会(金沢市)】

ウェブサイト



facebookページ



【コード・フォー・カナザワ】

facebookページ



Instagram



気になる活動があったら、気軽に顔を出してみてください

Q. 興味がある活動やイベントなどを見つけたら、参加しても大丈夫でしょうか？

A. もちろんです！ぜひ気軽に参加してみてください！

シビックテック活動は、できる人が、できることを、できる範囲で行っていく活動です。スキルの有無や継続して活動できるかなどはあまり気にせず、まずは気軽に興味をもった活動やイベントなどに参加してみてください。

新たな発見やつながりができるかもしれませんよ！

令和6(2024)年3月発行

金沢シビックテック推進協議会(金沢市市民局市民協働推進課内)

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号

TEL : 076-220-2026 FAX : 076-260-1178 E-Mail: kyoudou@city.kanazawa.lg.jp